お金は木にならない

お金は木（気）にならない…「勝手に増えない」＝「稼ぐもの」という感覚を、幼い頃から培うことが大切です。

大阪電気通信大学 金融経済学部
山本 利明 教授

8万時間の使い方

「人は何によって憶(おぼ)えられたいか」というのは、私がある研修会に参加したときに出会った経営学者ドラッカーの至言です。

最近、定年後の生き方を論じた本がベストセラーになっています。定年をきっかけに自分の残りの人生の過ごし方を考え直す際に、この言葉を頭の片隅に置かれてはどうかと私は思っています。

「定年後」(楠木新著。中公新書)を読むと、60歳で定年退職して75歳まで元気でいられると6万時間。さらに85歳まで生きるとプラス2万時間となり、なんと8万時間の自由時間が手に入ると計算されています(1日の自由時間が11時間と前提)。問題はこの8万時間をどう使うのか？ ただ漫然と趣味や娯楽で費やしてしまうのは、いかにももったいないことです 何かを残して 他人に憶えられることを意識するのは人間の自然な摂理ではないでしょうか。

私はこうした観点から、一念発起して社会的責任投資の専門書の翻訳を試みました。15年前の日本ではその意義が理解されませんでしたが、その経験が現在の私のキャリアの原点になっていることは確かです。

上から目線で、読者の皆さんに説教をたれるつもりは毛頭ありませんが、年頭にあたり、一年の計だけでなく、人生の計も改めて考え直すのも良いのではないでしょうか。最後にドラッカーの言葉を引用します。「今日でも私は、この問い、何によって憶えられたいかを自らに問いかけている。これは、自己刷新を促す問いである。自分自身を若干違う人間として、しかしなりうる人間として見るよう、仕向けてくれる問いである」(『非営利組織の経営』上田惇生訳)